

編輯室の内外

物騒な世となつた、餘り軍部を攻撃すると生命が無くなるから遠慮しなさい。と言つた御注告に接するが、編輯子は夫れ程に恐怖の念にかられて居ない、唯だ言ふべきを言つて世人の反省を求め、夫れで生命を絶たるれば夫れで可い、天下の大新聞と稱するものが、従來の主義主張を捨て、憲政上許すべからざる協力内閣の成立を謳歌する如きは、政黨の腐敗墮落を責むるよりは自らを責むる必要があらう。

夫養老の長逝に依つて産業土木計畫が又侯駄目に爲るので無からうかと心配した、夫れと言ふのも前若槻内閣の退却に依つて此事業が潰され、昔から悪いことは三度あるものと教へられた勢だ。併し臨時議會も自撰の間に迫り恐怖の念に襲はれてゐる議員連は發言し得ない想だから多分豫算は通過するであらう。何とかして成立せしめた

いものだ。

此豫算が成立すれば五十餘里の國道が改修され、路政界で八ヶ間敷言はれてゐた關門國道の調査も開始され、路政の大改革を見るに至る。夫ればかりではない常に臨時的事業視せられた政府の道路改良費豫算は之で恒久性を持つることゝ爲つた。編輯子は路政の萬歳を叫ぶ。

路政は此勢であるから、道路を改良しなさいナンテ獎勵の時期は既に過ぎ去つた。之からは其の實現に就て巧妙な方法を研究し夫れを實行すべきである。本會は此時選に際し七年度豫算を編制するに方つて調査研究事業に重きを置いた。何れ事業着手の上は各地方の各位に色々な事柄をお願する場合も少く無いであらう。本會趣旨の有する所に鑑みられ御援助を願ひたい。

本誌の所論は其の發行の趣旨からして主として路政に限定したのであつたが、本誌購讀者各位の顔ぶれを見ると一般土木に關

係さるゝ方が其の大部を占めてゐる。で今回登載範圍を擴張して一般土木に關するものも登載する方針に改めた。御研究の各位は御寄稿あらむことを切に御願する。

X ——— X

X ——— X

本誌定價 五十錢
一ヶ年分 金 六圓

東京市麴町區大手町一丁目内務省内
發行所 社団法人 道路改良會
東京府豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷三五六
發行兼編輯者 小島 效

東京市小石川區諏訪町五六

印刷所 常磐印刷所
印刷者 堀江關武